

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団 明星会		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	岐阜県加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	平成27年10月7日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2171300573-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設14年目を迎えているグループホームです。高齢化・認知症重度化は否めませんが、地域住民の方々の温かい支えやご家族のご協力により毎日を穏やかに過ごす事ができています。我グループホーム明星(半布里の宿)は、手を合わせて心落ちつかせる戦没者慰霊碑や素晴らしい公園、鳥のさえずりや野山の草花等に囲まれ季節を感じる事ができる所にあります。季節の行事(栗きんとん作り、ヨモギ大福作り、紫蘇ジュース、梅干し作り、切干大根・ほしだつ作り、切干大根・干し柿作り)等昔馴染んだ事を取り入れながら皆で一つの大家族のように過ごす事ができる家になっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境の中にあり、利用者は、茶摘みや彼岸団子作り・干し柿作りなど、在宅時に行っていたことを、家庭的な営みの中で、楽しみながら行っている。担当職員は、毎月交代制で、利用者との絆を深め、職員全体で思いを共有している。個々の能力に応じて、自立を支え、やれたことの喜びを、分かち合っている。歩行困難であっても、優しく手を取って、自立歩行ができるように支援をしている。地元のボランティアから、様々な行事で協力を得ており、地域と共に、利用者が生きがいを持って暮らせるよう支援し、より暮らしやすいホームづくりを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の中で自然に理念を取り入れる事ができるように努力し、それが実践へと繋げる事ができている	理念は、家族・住民との関わりを大切に、本人の意向を活かすことを明示している。その意義は、職員ミーティングの場で確認し合い、利用者の意思を尊重し、自分らしい暮らしができるよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設からほぼ13年が経過し、地域の皆さんにホームの存在を理解して頂く事により地域住民の一人として地域にとけこみ交流ができている。地域の皆様には助けて頂く事が多い。	利用者と共に、地域住民や行政へ足を運び、ホーム便りの配布を行っている。ホームの行事や清掃活動には、地域ボランティアの協力を得ている。また、近隣住民の茶畑で茶葉を摘むなど、日常的に地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	私たちの力で支える事ができるなら役に立ちたいとの思いで、認知症の人の理解・支援の方法を相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの方々より幅広く意見を頂き、良い意見交換ができています。また頂い意見がサービス向上へと繋げる事ができている。	運営推進会議は、家族を含めて、幅広いメンバーで行っている。運営の現状を報告して、意見を交わし、利用者の個別対応や地域内の高齢者事情など、多様な課題を話し合い、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方とは常に連絡をとり、利用者様・入居希望者様等の情報交換をするなど常に協力的で良い関係ができている。	地域包括支援センターの担当者と、常に利用者状況について、情報交換をしている。行政とは、サービスの取り組みや空室情報、困難事例を相談するなど、協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。疑問に思う事はその都度話し合う事により解決している。日中玄関は施錠をしていない。	身体拘束をしない方針で取り組んでいる。法人内研修で、拘束の弊害や事故防止対策などを学び、言葉の拘束についても、職員間で確認しあい、周知をしている。命の危険が生じる可能性がある場合は、家族の同意を得て、対応策を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修・勉強会を行い徹底し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	皆が研修により制度の理解をするように努めている成年後見制度を活用している利用者様は一名おられ、制度を学ぶ機会になっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべて契約に関する事は事前に十分説明し、理解・納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族様の気持ち・要望はホームの改善、ケアの質の向上に繋がる物として大切にしている。家族会・ケアプラン会議・面会時等で常に意見を聞き運営に反映させている。	家族会や家族の訪問時に、意見や要望を確認している。洗濯物たたみや掃除など、本人ができることを、やらせて欲しいとの家族から要望があり、利用者の自立につながるよう、見守りながら支援し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の皆さんが働きやすい明るく・チームワークを大切にする事を心掛け、各自が意見を発しやすい職場作りに努めている。	職員会議では、働きやすい環境づくりやチームワークづくり、利用者との信頼関係づくりなどを話し合っている。また、職員の家庭事情に応じた、勤務時間の調整を行うなど、働く意欲と定着率につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働ける職場環境を作れるように努力している。みなさんが同じ気持ちで明るく向上心を持ち、常に努力されている事に感謝し、その気持ちが利用者様にも伝わっているのではと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修・勉強会及び県社協、グループホーム協議会等外部の研修に積極的に参加できる体制ができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はなかなか難しく、研修に於いての交流だけだといえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自然な形で馴染み親しむよう、ご本人と向き合い信頼関係を築き、ご本人に不安を感じさせないよう安心・安全を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、困りごと、今後の不安等々に同じ気持ちになって聞き入れ、今までの実践を基に話し合いながら信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から情報を頂き、何を求めてどのようにしたいのかを見極め、適切な支援につなげる事ができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員、又利用者様同士の関係が良く出来ている。共に暮らす仲間としての心得も自然に取り入れ気配りされる光景がよくみられ楽しそうである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、ご家族、ご本人とが一体となり支えあっている。利用者様、ご家族の絆は大切にし、そのきずなが途切れないように支援し、お互い良い関係ができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ行く。お寺やお墓参り、家に行き馴染みのご近所さんとお会いする等今までの関係が継続できるよう支援している。又馴染みの方々がホームに気軽に来ていただけるような、温かいホーム作りに心掛けている。	近所の知人や友人、兄弟たちの訪問があり、手土産を、他の利用者と分け合って、一緒にお茶を楽しんだりしている。また、自宅へ立ち寄った時には、草取りをしたり、病院の受診時には、知人と出会って会話するなど、馴染みの場と、人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性・生活歴を知ることの良い支援ができている。認知症が重度化しても孤立することなく皆同じ家族という思いで支えあっている。時には利用者様同士対立する場面もみられるが、仲間意識がある事で混乱なく過ごす事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今までの関係を大切にしている。お見舞い、訪問、電話での様子伺い、最期のお見送り等ご家族の支えになるよう相談や支援に努めており、ご家族様からもお電話、訪問を頂く事が多くあり良い関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接等により生活歴や馴染みの暮らしぶりを把握し、日々の生活の中に取り入れている。何気ない会話の中からご本人の思いや希望を見出しサービス向上に努めている。	入居時に、一人ひとりの思いや意向を聴き取り、さらに、日常の場面でも把握をするよう努めている。本人ができること、得意なこと、身体能力にも配慮をしながら、その人らしい暮らしができるよう、支えながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を理解したうえで、今までの馴染みの暮らしができるように、その人にあった支援ができるように努力している。高齢化・重度化が進んでいるが、皆さん表情豊かに穏やかに過ごさず事ができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の一人ひとりの心身状態によりそれぞれ一日の過ごし方が違う事を把握している。重度化により困難な事も多いが、できるだけ有する能力が発揮できるように日々工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員により意見を出し合う事により、利用者様やご家族が望む生活ができるようモニタリング・介護計画の見直し・作成を行っている	介護計画は、毎月の会議で、支援経過をふり返りながら作成している。本人・家族の意向と、主治医、関係者の助言を反映させ、利用者が、より良い暮らしと目標が達成できるよう、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で、利用者様の思いや願いを引き出す気づきを養い、小さな事でもご本人の思いが込められている事を理解し、それを記録し、皆で共有することで介護計画の見直しに活かす事ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれることなく、その時々ご家族、ご本人の状況に合わせて柔軟なサービスができるように努めているが、その他の事業所としての多機能化は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	親近感がある地元住民の方々にはいつも支えられ助けて頂く事が多い。地域のボランティアの方々にはホーム内の行事や外出支援など支えて頂く事により、ご本人が望む安全で豊かな生活を楽しむ事ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係はご家族・ご本人の希望で深くかわる事ができ、信頼関係ができている。その人によっては家族代理で受診・投薬も受けながら適切な指導のもとで支援している	入居前のかかりつけ医受診を基本とし、希望によって、往診を受けている。緊急時や必要に応じて、法人の診療所や併設施設の医師、協力病院と連携し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である老健施設、診療所の医師・看護師に相談し助言を受ける事により早めの処置や対応ができる等健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	環境が変わる事で病院では混乱される事が多く、認知症も進行する為医療機関との情報交換により早期退院ができるように努めている。それにより今までの生活が継続できることでご家族・ご本人も安心される。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については入居時にご家族と十分に話し合い説明する。最期までとい看取りは困難かもしれないが、家族のように生活を共にしてきた同士として可能な限りまで精いっぱい最善の努力をさせていただき支援をしている	契約時に、重度化と終末期の方針や対応を説明している。ホームでの生活は、ホームで対応できる医療行為までとしているが、重度化した場合、段階的に、主治医と家族との話し合いの下、最善の支援ができるよう努めている。	利用者の高齢化に伴い、今後、看取りの可能性もあることから、家族にも理解が得られ、不安感を解消できるよう、終末期支援の明確化と明文化に期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、救命救急法の勉強会に出席したり、急変・事故発生に対応した職員により指導を受けたりすることにより実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	できるだけ毎月9日を避難訓練日とし独自の方法で行っている他に母体老健施設と訓練を共に年2回行っている。	災害訓練では、近隣住民が参加し、見守りでの協力体制がある。また、運営推進会議の場でも、様々な課題や対応について話し合い、訓練時の協力依頼をしている。自主訓練も、年に5回行い、備蓄品は最低必要限である3日分を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症重度にて言葉の理解出来ない方が多いがその中でも一人ひとりを人生の先輩として尊重し、その人に合った声かけをする等プライドを傷つけない対応に心がけている。	利用者一人ひとりの状態に合わせ、声かけと対応に努めている。話すときは、目線を合わせ、ゆっくりと丁寧に、誇りを損ねないように話しかけている。毎朝の洋服選びも、自己決定や意思を尊重し、困難な人は、手伝いながら、丁寧に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症重度化により自己表現・自己決定が出来ない事が多くなったが、常に寄り添い生活を共にする中で何気ない言葉を大切にすることで、その人の思いを引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の気まわりや都合を優先する事もあるが、出来るだけ一日を穏やかに過ごして頂けるように、天気・体調の良い日には外出、散歩、モーニング等に出かけるなどの希望をとっている。又墓参り・家に行く等個々の希望も取り入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年を重ねても女性らしく保って頂きたい。鏡を見て髪の毛を整える、時にはマニキュアをする等しておしゃれをし気分を変える事も大切である。洋服等ご自分で選べない方はその人に合った服を着て喜びを感じて頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材である事や献立を伝えて楽しく食事が出来るように支援している。食事の準備・片付け出来る方が少なくなってきたが、芋の皮むき・ごぼう、人参のさがき等座ってやって頂いたり、たとえ出来なくても食材に触れ季節感を味わいながら少しでも食材と関わられるように支援している。	利用者の食べたい物を、普段から把握をするよう努め、献立に活かしている。利用者は、野菜の皮むきや下ごしらえ、保存食づくりなどを、職員と一緒にこなしている。職員が三食手づくりし、家庭的な美味しさと食事の楽しさを、皆で味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自に応じて食事の量を調節したり、自力で摂取出来ない方は介助する事で栄養バランスや水分補給は十分出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員口腔ケアを行う習慣が出来ている。出来るだけご自分でやって頂くようにして、出来ない方は介助しているが、一部を除き定期的な歯科受診が出来ていないのが課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、早めの誘導する事により失禁を減らす支援をしている。又失禁のある方でも日中は出来るだけ布パンツを使用し快適に過ごすことが出来るように支援している。	個別の排泄のパターンに応じて、声かけとトイレ誘導を行っている。布パンツの人は、数名であるが、さらに自立が高まるように取り組んでいる。また、安易に便秘薬に頼ることなく、手作りのどくだみ茶で、便秘を予防できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居時は便秘薬使用の方が多いが、食事・適度な運動・十分な水分補給・どくだみ茶を混ぜた自家製のお茶を飲む等により薬に頼らず自力排便できる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望を言われる方は少ないが、ぬる好き、熱好き、早く入りたい等出来るだけ希望を聞き入れ、「気持ち良い風呂や」と言って楽しく入浴していただけるように支援している。	入浴は、希望があれば毎日でも可能とし、拒否の人には、時間をずらしたり、声かけを工夫している。入浴時は、利用者もリラックスし、職員との会話を楽しみながら、ゆったりと過ごしている。職員は、利用者から聴き取った会話を共有し、日々のケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は安心して眠りにつけるようにその人に合った部屋の温度・明かり・寝具等を調整し、雑音を無くし、優しい言葉かけにより直ぐ眠りに就かれる方が多い。お昼寝は年齢・体調に合わせて休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬については皆理解している。変更がある時はその都度申し送り・記録して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化・重度化により生活歴を生かした役割などは困難になりつつあるが、その中でも外出等の気分転換や昔馴染んだ事(干し柿作り、梅干し作り、餅つき、切干大根作り)等取り入れ、張り合いある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寺詣り・お彼岸のお墓詣り・家に行き家の様子を見たり、ご近所さんと会う。又地元のボランティアさんの協力を得て全員で外出したり、定期的にモーニング・外食を行うなどの支援をしている。	地元ボランティアの協力で、ホーム周辺を散歩したり、ウッドデッキで外気浴を行っている。花見などの季節の行事や公園に、時には、お弁当持参で出かけたり、喫茶店などへも出かけている。普段行けない所は、家族とボランティアの協力を得て、外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行っている。1名様のみ少額の金額を所持されている為時には郵便局で葉書を買うなど自分で支払できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話は自由にして頂いている。認知症重度にて手紙のやり取りは困難であるが、1名様のみ年賀状のやり取りをされ毎年楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓より外を見る事により柿や野鳥、桜等の花々が見られ季節を感じる事が出来ている。又共有空間には見慣れない物を置かない事、歩行の障害になる物を置かない等安全に心地よく過ごせるように工夫している。	キッチンに面したリビングは、生活感があり、居室に続く廊下には、長い手すりが付いている。リビングのソファには、手づくりカバーがかけられ、座布団を置き、利用者は、思い思いの場所で寛いでいる。湿度や室温を適度に保ち、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下中央には見え隠れする場所があるが、重度化によりご自分で移動できる方が少なく、あまり利用されていない。リビングでは気の合った利用者様同士が自然と隣り合わせで過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人・ご家族で自由に飾り付けされている。馴染みの家具・椅子等持ち込まれたり、ご主人の遺影をおいて毎日お参りされている方もある。ただ足元に引っかかるマットを敷くなど危険と思われる場合は職員側からアドバイスさせて頂いている。	居室を間違えないよう、ドアと暖簾に工夫をこらしている。馴染みの整理ダンスや家具類を持ち込み、折り紙作品や手芸品、家族の写真、花を飾り、その人らしく居心地よく暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢化・重度化により車椅子使用が多くなってきている為出来るだけ空間を広くして安全に過ごして頂けるように工夫している。		